

団体名：シャンティ国際ボランティア会

国名：アフガニスタン

日付：2018年4月3日

報告書名：平成28年度 ジャパン・プラットフォーム 事業完了報告書

平成28年度 ジャパン・プラットフォーム 事業完了報告書

2018年4月3日

事業名	初等教育改善事業6	
事業対象地	アフガニスタン国 カブール市 ナンガハル県	
事業期間	事業期間：2016年2月15日～2017年12月31日	
公的資金種別	ジャパン・プラットフォーム アフガニスタン人道支援プログラム2016	
総支出・返還金	総支出：132,071,231円（返還額：0円）	
プロジェクト目標および、その達成度	<p>本事業の目的は、カブール市およびナンガハル州の「児童の学習環境を改善する」ことである。この目的を達成するために、①安全で快適な教室で学習することができる児童が増加する、②小学校において学校図書室が普及する、③子どもが学校外教育の機会を得る、の3つの成果を産出する。</p> <p>①カブール市の2校（20教室）の校舎建設、②ナンガハル州・カブール州の28の小学校での図書活動の普及、③ジャララバード市での子どもの学校外教育活動を行った。これらの活動を通して、物理的な学習環境、教員の質、教材（図書）へのアクセスといった成果を達成することで、対象児童の学習環境を改善した。</p>	
実施内容 概要	(1) 校舎建設活動 カブール市内の対象校2校で、合計20教室の建設と備品の供与、防災教育を含む施設維持管理研修を実施し、合計3,443人の児童が安全で快適に学習できる環境を整備することができた。「教室で学習するクラス数が33、児童数が1,551名増える」という計画時の目標は、123%達成された。	受益者数 Sharake Safa 校の61クラス 3,032人の児童と教員59人 Abdurauf Benewa 校の10クラス 411人の児童と教員52人（見込み）
	(2) 図書室改善活動 図書室の設置、教員研修、移動図書館・モニタリング、防災紙芝居の出版および絵本15タイトルの再版を行い、対象校児童の良質な教材（図書）へのアクセスを確保した。「17校において図書室の貸出数がひと月あたり350冊以上。」という目標は、カブールで150%、ナンガハル州で140%達成された。	対象校28校の登録児童・生徒61,820人
	(3) 子どもの学校外教育活動 図書・文化活動を通じた子どもの学校外教育や特別行事、不就学児童を対象とした特別教室を実施し、ライフスキルの修得や就学の機会を提供した。1日当たり120人の児童が学校外教育活動に参加しているという計画時の目標は108%達	子ども図書館の延べ利用者（2016年2月～12月）26,841人

団体名：シャンティ国際ボランティア会

国名：アフガニスタン

日付：2018年4月3日

報告書名：平成28年度 ジャパン・プラットフォーム 事業完了報告書

	成された。	
成果	<p>カブール市内での学校建設活動を通して、71クラス、3,443人の児童が安全で快適な環境で学習できるようになり、図書館改善活動を通して、対象校28校（カブール市内12校とナンガハル州の16校）の生徒33,322人が学校での図書室が利用できるようになり、多様な図書や教材へのアクセスが可能になった。また子どもの学校外教育活動を通して、ナンガハル州ジャララバード市内の子どもたち延べ30,611人が教育へのアクセスでき、不就学児童42名が公立小学校1年生と同等の内容を扱う教室を修了することができた。3つのコンポーネントの成果目標は概ね達成されていること、また校舎建設活動と特別教室活動により、380人就学児童が増加したことから、「児童の学習環境が改善される」という事業目的は達成されていると判断できる。</p> <p>本事業のターゲットグループは小学生児童であるが、建設対象となった2校では高等部、中等部の生徒も就学しているため、在籍する中高生も新校舎が利用できている。教室不足のため、3部制を維持せざるを得ないものの、児童、教員へのインタビュー結果によると児童の学習意欲、教員の勤労意欲が向上している。新しい校舎が出来たことで、登録者数が増え、380人の子ども達が新たに就学している。</p> <p>子どもの学校外教育活動については、タラナ（詩）の朗読、自分たちで作って演出した劇の公演、裁縫・工作・絵画教室などの文化活動は、女子のライフスキル向上やエンパワメントに寄与していると考えられ、家の外を自由に歩けなくなる年齢に達する前に女子が自信をつけることは成人になってから役立つものと考えられる。</p> <p>不就学児のための特別教室活動では、42人が9か月の教室を修了後、27人の子どもたちが公立小学校への編入出来た。</p> <p>事業を実施するにあたり事業地の文化的、歴史的背景を鑑み、脆弱層の教育へのアクセス、質の改善を重視してきた。校舎建設・備品供与の活動では被差別集団であり虐殺された歴史背景もあるハザラ民族が100%を占める Shake Safa 校を対象とした。なお、他のドナーから対象校および近隣の学校への、校舎建設の支援はされていない。図書室改善活動においては、カブール市の対象児童の45%は貧困層であり、ナンガハル州の21パーセントは帰還民、16校のうち6校ではパシャイ族の児童が8割を占める。また子どもの学校外教育では、参加者の60%以上は貧困層の不就学児であった。以上のことから、脆弱層の教育へのアクセス、質の改善の観点からニーズに対する本事業の妥当性は高いと判断する。</p>	